

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.



実用新案登録願 (1)

昭和54年12月18日

特許庁長官 川原能雄 殿

1. 考案の名称 ヨリサシ

2. 考案者

住所 (居所) 神奈川県藤沢市鵠沼神明4-4-6

氏名 ベツダ 委弘

3. 実用新案登録出願人

郵便番号

247-□□

住所 (居所) 神奈川県横浜市戸塚区小音ヶ谷町1750番地

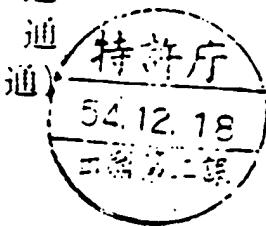
氏名 (提出者と異なる場合) 株式会社新和製作所

代表者 キン岸 ノブ信和



4. 添付書類の目録

(1) 明細書	1通
(2) 図面	1通
(3) 願書副本	1通
(4) ()	通



54 174417

7155?

明 細 書

1. 考案の名称：燃り刷子

2. 實用新案登録請求の範囲

折り曲げて2本となつた線条(2)の間に、並列する多數の刷子毛(1)を夾んで線条(2)を螺旋状に巻ねじり、刷子毛(1)を燃られた線条(2)の間に植設した刷子に於て、線条(2)の表面に微細な凹凸(4)を有している事を特徴とする燃り刷子。

1字訂正

3. 考案の詳細な説明

本考案は化粧品のマスカラ刷子等の如く塗布具としての燃り刷子に関するものである。

従来、斯種燃り刷子は刷子毛1を燃られた2本の線条2の円柱面の接触線をなす挿持部3で挟持するだけであるので、刷子毛1が抜け易いと云う欠点があつた。

更に、該燃り刷子を塗布具として使用した場合、線条2の表面には従来、塗布液又は塗布物（以下塗布液等と云う）との親和性に関する配慮は為されていなかつたので線条2の表面には塗布液等はのらず、専ら刷子毛1のみで塗布液等を含ん

で塗布の目的を達成していたのであるが線条2の表面に於て塗布液等の片寄つた滲溜があつて均一な塗布作業を為し難いと云う欠点を有する。

本考案は以上の点を考慮したもので本考案の目的とするところは線条2の表面に微細な凹凸4を与える事により刷子毛1が抜ける事のない、然も線条2の表面にも塗布液等が均一にのり、均一な塗布作業を為し易い擦り刷子を提供することである。

以下、図面に従つて本考案の構成を説明すると、第1図は本考案による擦り刷子の正面図であり、1は合成繊維、天然繊維、金属繊維等の繊維からなる刷子毛であり、2は常温に於て強い外力を加えられると塑性変形をして、これが燃られた場合容易に元に戻らない硬性質を有する金属伸線（針金）よりなる線条である。4は線条2の表面に於ける凹凸であり線条2に前以て刷子毛1を挟んで燃る前に銷ゆるホーニング加工又はプラスチック加工又はシボ加工等を施して凹凸4を附与しておく、ホーニング加工等の与え方としてはホーニ

シグ加工等の浴槽の側壁に線条2が通り得る穴を相対して2箇所あけておき、この穴に金属伸線を挿入し、他方の穴から引き取る様にすれば金属伸線の表面には微細な凹凸4が附与された線条2を得る事が出来る。

以上の如く表面に微細な凹凸4を有する線条2で作つた燃り刷子は第3回の挿持部3に於て刷子毛1が線条2の凹凸4の凹部分に嵌入り、逆に線条2の凹凸4の凸部分は刷子毛1に嵌入つてゐる事となる、更に線条2の表面の微細な凹凸4は線条2の表面の表面積を大きく増大させる事となる。
1字訂

ここで燃り刷子の製法をマスカラ刷子に就て叙述すると、先ず適當な長さの金属伸線を真中から刷子毛1を挿入し得る間隙を残して折り曲げておく、次に刷子毛1よりなる定寸（普通5～6cm長さ）の複数束から多數本の刷子毛1を燃られた金属伸線の長手方向に対する植毛長さに合せた長さに並列に並べて折り曲げた2本の金属伸線の間に挿入して金属伸線の折り曲げ部を把持して金属

伸線を刷子毛1と共に熱つていつて製作するのであるが、この場合刷子毛1は金属伸線との摩擦抵抗力によつて撓られる金属伸線に巻き込まれてゆき刷子毛1が撓られた金属伸線の間に止まり、植毛される結果となるのであるが通常は金属伸線と刷子毛1との摩擦係数は比較的低いので刷子毛1が巻き込まれてゆく作用が不定となり植毛された多數の刷子毛1に粗密を生じ易く、撓られた金属伸線の長手方向に対する植毛長さも精密には定まり無い、従つて表面に複雑な凹凸を有する歯条2で撓り刷子を作成した場合には刷子毛1と歯条2との摩擦係数が従来よりも大きいので本考案による撓り刷子は植毛された多數の刷子毛1に由來する殆んどない歯条2の長手方向に対する植毛長さの正確な撓り刷子となる。

更に本考案による撓り刷子は既説の如き構成となるので刷子毛1と歯条2とは挿持部3に於ける凹凸4の存在によつて強間に接着して居り、刷子毛1は歯条2が弛んでしまわぬかぎり撓られた歯条2から抜ける事がないので特に例図の

如く刷子毛 1 の 1 方を植設部より短く毛先削えをしてある場合に於てはその効果が大である。

次に本考案による燃り刷子は洗浄等の用途に対する場合は線条 2 の表面に微細な凹凸 4 がある事は、この凹凸 4 の部分に汚染質が保留されるおそれがあるのでむしろあまり好ましくないと思われるが、刷子部が常に液の中の塗布液等の中に浸漬した状態にあり張疣い等の必要性のないマスカラ刷子の如き該付栓形式の為の塗布具としては線条 2 の表面に微細な凹凸 4 が存在するので線条 2 の表面の表面積が大きくなつてゐる事となり塗布液等の保持が良く、然も均一であり塗布作業を為し易い従来の燃り刷子の欠点を解消した従来品よりも進歩した燃り刷子と云える。

4. 凹面の簡単な説明

第 1 図は本考案による燃り刷子の刷子部の正面図であり、第 2 図は第 1 図の左側からみた側面図であり、第 3 図は 2 本の線条に挟持された刷子毛の状態を説明する為の断面図である。

1 . . . 刷子毛、 2 . . . 線条、

公開実用 昭和56-91507

3 . . . 搭持部、 4 . . . 凹凸

実用新案登録出願人 株式会社新和製作所

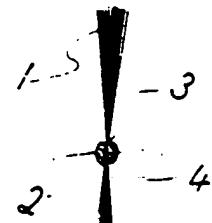
第1圖



第2圖



第3圖



91507

美用新製造有限公司 製作所